

「学び・対話し・分かち合う」研究会シリーズ

シェア ラボ れぽーと

SHARE LAB. report

vol.1 うごく

「シェアラボれぽーと」はシェアラボの内容や話し合ったコトをみんなにお知らせするニュースペーパーです

2014.7.3. 木 /16:00-18:30

会場：追手門学院大学 食堂棟3階

シアトルズベストコーヒー奥

●トークゲスト●

土井 勉氏

(京都大学 特定教授)

安村 克己氏

(追手門学院大学 教授)

発行：追手門学院 成熟社会研究所

シェアラボ ってなに？

「シェア（分かち合う）」「ラボ（研究）」は、共通テーマを軸に人と社会のこれからを考える研究会シリーズ（計5回を予定）。

世代や専門の垣根を越えて、みんなで学び・対話し・分かち合うことで、新しい発見と気づきがきつとある！

学院内外からのゲストによる講演+みんなでギロンするワークショップを行います。

毎回、身近な動詞をテーマに、現状とこれからを考えます。

ドリンク片手にリラックスした雰囲気で行い、**関心のある方はどなたでもご参加いただけます！**



プログラム①

まずはみんなで考えてみました。

3～4人の小グループに分かれて「ワールドカフェ形式」でお題について自由に意見交換。アタマの中をテーマである「うごく」にシフトしていきます！

キーワードや気になった言葉は机に広げた模造紙に書き込んで記録。

こんな意見がありました！

●旅するよりも貯金？ 旅するための貯金が無い？●いつでも旅にいけると思うと行かないように。●旅の目的は知らない土地への憧れだったけれど、世界の均一化が進むと観光の意味がなくなるかも？●部屋から出なくても楽しめる～オタク文化も旅の変化に影響を与えているのでは。●海外赴任がイヤだという商社マンもいる。●旅というのはサバイバル、学習意欲があるもの。●学ぶカルチャーショック。●若いうちに海外体験をして問題解決に取り組むと気づきがある。●今でもライダー族や日本一周自転車の旅などをしている若者はいる。

旅の目的や方法が多様化しているのは確か。準備やトラブルのことを考えると面倒が先立って旅離れる若者も多くなったのでしょうか？

旅

● お題はコチラ！

若者は、 車と旅から遠のいている…!?



こんな意見がありました！

●車を持たないのはお金がないから？それとも興味がないの？●子どもができたときに子育てのために車を買う人がある。●30代で車を手放していくような人もいます。●車は持っていないでも免許はとってる人はいる。●田舎だと車がないと暮らせないから必須！●郊外暮らしで車は好きだけど地元からは出たくないという「マイルドヤンキー」の存在もある。●車は持ってるけれど「軽自動車」という人●車とお酒の関係…飲んだら乗れない。お酒のない生活はイヤだ！●色弱だと信号が見にくくて暮らしにくい。

車

どうやら車の持ち方、使い方もどんどん多様化していつているよう。

昔のような「車がステータス、必須」感は確実に薄れていますね。



プログラム② ゲストトーク 土井 勉 氏

うごくことで
都市や地域の
あり方が
見えてくる！

「『うごく』から見える近未来 －ライフスタイルから都市構造まで－

公共交通政策等をご専門とされる土井先生からは「交通」について様々な視点でお話頂きました。

■**交通**とは？～日常生活や仕事の場など様々なものをつなぐ距離を克服するためのもの。距離を克服するもうひとつの手段は情報通信網。

■**交通と都市**の関係～自動車型のまちで看板が自動車目線で設置され、パリの道路が馬の習性に合わせてあり、阪急電車の沿線が開発されていったように、交通手段がまちの形を作る。

■**モータリゼーション**＝自動車の時代がやってきたけれど、年間 12 兆円の損失とも言われる渋滞を生みだし、車視点での道路整備で生活は郊外型に。結果、公共交通・中心市街地が衰退。現在は自動車保有台数は低下、若者は車離れしている。

■**社会も多様化**して、行政と自分だけでは支えることが困難に。しかし自治会のコミュニティ力は低下。そんな中に、「効率的ではないまち」の取り組みがある～水路の維持管理という面倒なことを地域が引き受けたことでコミュニケーションが生まれた（神戸市兵庫区松本地区）

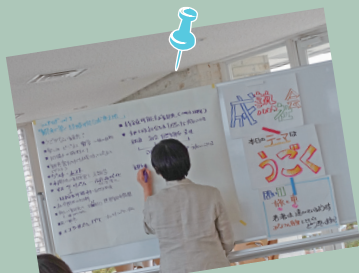
■**「うごく」**からライフスタイルや都市構造が見えてくる～歩いて健康になる「安寧なまちづくり」、自分たちの行動から自分への気づきを起こさせる MM（モビリティマネジメント）の考え。

「交通＝動くこと」から都市の様々な課題や未来が見えてくる！そんな講義でした！ クロネコヤマト（自転車）の嵐電（電車）利用という交通面での企業コラボのお話、興味深かったです。



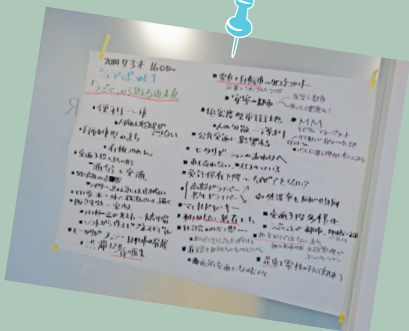
時間が足りないほど盛り上がった
グループディスカッション！

「対話する」



ゲストトークのキーワードは
リアルタイムで記録中！

「学ぶ」



最後は円座で感想をシェア
同じ場にも感じ方は様々

「分かち合う」

ゲストプロフィール

土井 勉 氏 (どい・つとむ)

(京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻 特定教授)

名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了（1976年）、京都大学博士（工学）。京都市（水道局・都市計画局）、阪急電鉄株式会社、神戸国際大学を経て、2010年10月より京都大学特定教授。京都大学「安寧の都市」ユニット・副ユニット長。著書に『ビジョンとドリームのまちづくり—まちと交通再生のための都市政策』（2008年）、『鉄道でまちづくり—豊かな公共領域がつくる賑わい』（2004年）、など。



プログラム③ ゲストトーク

安村 克己 氏

ボトムアップ型で
持続可能な
観光へと！

観光で築く持続可能な成熟社会

観光まちづくり等をご専門とされる安村先生からは「観光」という切り口でお話頂きました。

■**旅の目的**には「観光～楽しみ」「ビジネス」「留学」など様々なものがあるが、今や世界の海外旅行者は年間 10 億人を超えるほどに旅行人は増加した。

■**高度近代化社会**が生みだした「マス・ツーリズム（いつでも観光に出かけられるように経済的に豊かになったため、膨大な数の観光客が動く社会現象）」は、自然破壊や文化変容などを引き起こし、持続不可能性問題となり「悪い観光」という意味を持つようになった。

■**脱マス・ツーリズム**の動きが起こり、持続可能な「よい観光」としてエコツーリズムや PPT（Pro-Poor Tourism）が実践された。

■**持続可能**な観光がつくる持続可能な地域社会とは「経済」「自然環境」「社会関係」「文化」が最適のバランスをとっている状態。地域社会とは自然の上に成り立っている。

■観光はトップダウンから**ボトムアップ**へ～限界集落が！ ターン居住者や周辺住民と協力し「みんなの店」を運営し、観光まちづくりでコミュニティが活性化した例もある（三重県松阪市柚原町）

持続可能社会と観光が実は深く関わること、を感じた講義でした。観光は観光客（ゲスト）だけでなくホストの存在も重要という視点では「うごかない」観光の側面も見なければ！

「バランス」と「持続可能」をきちんと理解していくことが大事。

今の重々しい社会を明るく変えるきっかけに！

成熟社会をいろいろな角度から揺さぶっていくといういろいろな答えが見えてくる。

「まちづくり」って最終的には地元住民のコミュニケーションだ！

いろいろな切り口が成熟社会につながっていると感じました。

これからの成熟社会に向けて地域を「動かして」いきたい。

プログラム④ 感想をシェア

「今日、何を感じた？」

効率や利便重視の価値観を変えて、見捨てられつつあった農村から都市の再生へ！

「うごく」ことでいろんな話が聞けて、いろんな課題も見えた！

手間をかけることが実は面白いと感じた！

持続可能な暮らしは成熟社会や観光にもつながってる！

住んでいる人とまわりにいる人のがんばりで地域は維持されてるんだなあ。

近代の進歩といえる「動くこと」を「若干否定的」にとらえる見方もあると感じた。

ゲストプロフィール

安村 克己 氏 (やすむら・かつみ)

(追手門学院大学地域文化創造機構副機構長 兼 基盤教育機構教授)

立教大学大学院社会学研究科博士課程修了 (1987 年)、博士 (観光学)。立教大学助手、産能短期大学、北海学園北見大学、鈴鹿国際大学、奈良県立大学を経て、2014 年 4 月より追手門学院大学教授。著書に、『観光—新しい時代をつくる社会現象』(2001 年)、『観光まちづくりの力学—観光と地域の社会学的研究』(2006 年)、など。

まとめ、のようなもの。

設立したばかりの成熟社会研究所で、最初に「うごく」企画としてスタートしたシェアラボは、参加者の気持ちや思いをいくばくか「うごかした」のではないかと考えています。実のところ、研究所のメンバーの思いが一番「うごいた」のかもしれません。

交通と観光の動きが、これまで、そしてこれからの社会のあり方に深く関わってくるのが見えました。選択肢が多様化していく中で、選べないから手を出さないのではなく、まずは動いてみるのが大事なのではないでしょうか。何事も「うごいて」みなければ分からない！今後もシェアラボはどんどん動いて、そして多方面に広げていきたいと思います！（な）



今後のシェアラボは・・・

「まなぶ」「あきなう」
「すまう」「つたえる」
などをテーマに開催予定です

追手門学院
成熟社会研究所

〒540-0008

大阪市中央区大手前 1-3-20

追手門学院 大阪城スクエア内

TEL：06-6948-5835

FAX：06-6948-5836

○茨木キャンパス内分室

〒567-8502

大阪府茨木市西安威 2-1-15

研究棟 1 階 107 号

シェアラボについてのご意見・お問合せは・・・
seijuku@otemon.ac.jp まで！！